

議長	副議長	事務局長	書記
			



「町民と語る会」報告書

開催日時	平成30年11月20日	午前・ <u>午後</u> 1時30分～午前・ <u>午後</u> 3時30分
団体等名	庄内町民生委員・児童委員協議会	
開催場所	第四公民館 ホール	
出席議員	工藤範子・澁谷勇悦・石川武利・長堀幸朗・齋藤秀紀・加藤将展・小野一晴	
参加人数	58名(民生委員・児童委員協議会56名・町職員2名)	
主な「質疑」「意見」「要望」「提言」など	<p>質疑等の概要は下記のとおりです。(事前提出の質問等の全文は、別紙) 記</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>民生委員の欠員補充について 答 自治会長から相談あった場合は、協力したい。</li> <li>見守り活動にかかる予算の確保について 答 ヤクルト等の持参は、見守り訪問活動に有効である。 担当課は予算要望し、議会としても後押ししたい。</li> <li>町の福祉施策について 答 障がい者(児)の施策は広域行政となっていることから、関係施設は町外が多くなっている。父兄の負担や不安は大きいので送迎の強化など、さらなる施策の充実は必要と考えている。</li> <li>個人情報のオープン化 答 情報提供の必要性は認められますが、法的な縛りがあり、現段階ではオープン化は難しい。</li> <li>災害時の自主防災の強化、民生委員の役割について 答 災害時活動に対する苦悩は理解できる。危機管理担当課へ伝える。 我が身の安全を確認・確保した上での活動となることを徹底すべきである。</li> </ol>	

庄内町議会議長様

平成30年12月17日

庄内町議会「町民と語る会」実施要領の規定により提出します。

平成30年度 町民と語る会

第\_\_班 / 総務文教厚生 産業建設 常任委員会

班長 / 委員長

工藤 範子



平成30年10月23日

庄内町議会総務文教厚生常任委員会  
委員各位

庄内町民生委員・児童委員協議会  
会長 佐藤 昭



総務文教厚生常任委員との話し合いについて（依頼）

私たち民生委員・児童委員は、国の厚生労働大臣より拝命を受け、「国家特別地方公務員」の任に当たっております。私たちの日常活動の実態を理解いただき、議会としてのご指導ご協力を賜りたく、下記により貴委員会委員の皆様からご意見をお伺いする機会を設けていただきますようお願い申し上げます。

つきましては、皆様より幅広くご意見を賜りたく、それぞれの委員の皆様よりお考えをお聞かせいただきたく存じます。

記

- ・日時 11月20日（火）午後1：30～3：30
- ・場所 第四公民館 ホール
- ・資料部数 71部お願いいたします。
- ・その他 話し合いに先立ちまして、委員の皆様より各自5分程度、自己紹介、特に関心のある福祉施策、民生委員・児童委員活動についてどのように感じているかをお話いただきたく存じますので、よろしくお願いいたします。

（内容）

①民生委員の欠員補充について

現在民生委員の不在地区が第2地区3名・8集落、第5地区が4名・10集落、第6地区が1名・3集落の現状となっているため、8名の欠員で21集落の方々が様々な面で不自由をきたしております。民生委員の推薦は自治会長の推薦によって選任され、町の推薦委員会で承認され、関係機関への届出を経て

委員となります。これまでも民生委員の欠員については、事ある機会に自治会長へ推薦要請を行ってきたところですが、中々不在地区の候補者がいない現状にあります。よって、委員の皆様よりお力添えをいただきたく存じます。

#### ②見守り活動に係る予算の確保について

以前は、見守り訪問活動の際にヤクルトを持参し訪問しておりましたが、市町村合併を機にここ10年ほど行ってまいりませんでした。しかし、昨年度山形県民生委員児童委員協議会より補助金をいただき、要支援者の訪問の際に配布し、大変好評をいただきました。2ヵ年継続補助事業となっていることから、今年度においても事業を実施する予定であります。

超高齢化社会に伴って、地域の民生委員の担う役割は増加し、見守り活動の強化が重要となっております。今後も継続した見守り活動を行っていくために、活動費の確保が必要と考えておりますので、町補助金の増額についてお力添えをいただきたく存じます。

#### ③庄内町の福祉施策について

近年、少子高齢化・核家族化の進行、生活環境の変化等により、家庭や地域を取り巻く環境が大きく変化する中、家庭での介護力や地域における互助機能の低下が指摘されています。こうした中で、高齢者や児童への虐待、ひきこもり、生活困窮者の増加、認知症や障がい者の権利擁護など、福祉における課題は多様化・複雑化しています。

このような中、誰もが住み慣れた地域で、共に支えあいながら、安心して暮らしていくためには、多様化する生活課題への対応が町だけでは難しく、地域の力が重要となってくるため、皆様のお考えをお聞かせいただきたく存じます。

#### ④個人情報のオープン化について

民生委員・児童委員は、福祉票の作成により、高齢世帯や障がい者世帯などの見守りの必要な世帯の把握に努め活動を行っておりますが、近年徘徊高齢者事前登録事業の情報提供を受け、見守りを行う場合も増加しております。

しかし、徘徊登録の場合、多くが行政区長や民生委員への情報提供に留まっており、実際に徘徊があった場合の対応としては不十分であると考えます。いち早くご本人を捜索、保護するためには、少なくとも地域の役員や近隣住民への情報提供が必要であると考えますが、現状は個人情報保護が優先され、情報提供できない状況に有ることから、皆様のお考えをお聞かせいただきたく存じます。

⑤災害時の自主防災の強化、民生委員の役割について

先の大雨による河川氾濫のおそれによる避難指示や勧告等で、多くの住民が指定避難所に避難した際には、各地域の民生委員も高齢者や障がい者等の安否確認のため尽力いたしました。近年に無い災害による避難を経験し、訓練とは違い、実際の町の対応や、地域の対応、民生委員としての役割について考える機会となりました。具体的には、地域によって災害への意識や取り組み方が異なること、民生委員としての役割について具体的に明文化したものが無いことなどがあげられます。災害時避難行動支援者登録台帳を活用した避難体制の整備などの自主防災組織の強化や、災害時の民生委員の役割や協力体制を明らかにし、支援体制を構築するなど、さらなる防災の強化について、危機管理部局への働きかけをお願いしたいと考えますが、皆様のお考えをお聞かせいただきたく存じます。

【問合せ】

庄内町民生委員・児童委員協議会事務局

担当：庄内町保健福祉課福祉係

加藤、荒木

電話：0234-42-0149

# 「町民と語る会」報告書

開催日時	平成30年11月26日	午後3時00分～午後5時00分
団体等名	清川地区振興協議会	
開催場所	清川公民館	
出席議員	吉宮茂（オブザーバー）、小野一晴、齋藤秀紀、加藤将展、長堀幸朗	
参加人数	15名	
主な「質疑」「意見」「要望」「提言」など	<p>※清川地区振興協議会との町施策についての意見交換は、以下のとおり。 (質問:団体参加者)</p> <p>Q1 清川地区の避難所が公民館で安心なのか。船番所は避難所になりえるのか。 A 船番所を建設している場所は、土砂災害警戒地域になっているので避難場所にはならない。今後、歴史公園構想の中で、公民館と体育館の複合施設を優先することにより、避難所の問題は改善すると思われる。ちなみに、現在の公民館の場所は、ギリギリで土砂災害警戒地域になっていない。</p> <p>Q2 8月の豪雨で、最上川の増水で避難勧告が出たが、我々としては北館大堰の方が深刻に思えた。北館大堰の対策は十分か。 A ハザードマップに反映させるなどの対策ができるか担当課に伝える。</p> <p>Q3 立川地域の生ゴミの収集はどうなるのか。 A 平成31年度(4月1日)から生ゴミ回収は廃止され、生ゴミは可燃ごみの袋に可燃ごみと一緒に入れることになる。収集日は、これまでの週1回から、週2回となる。これにより、一部集落の集積スペース不足が解消すると思われる。</p> <p>Q4 今後、庄内町議会議員の定数はどうするのか。 A 今年の選挙では、定数割れしていることから、次の選挙まで議論していくことになると思うが、今はまだしていない。よく15人でも支障なく活動しているじゃないかと言われるが、今いる15人で必死にカバーしている。</p> <p>Q5 立川庁舎の今後のあり方は、どうなるのか。 A 今後の立川庁舎は、総合支所として、全ての手続きが本庁舎に行くことなく、立川庁舎でできる体制を整えていく必要がある。本庁舎に移転した後の空きスペースの活用策は、町のワークショップや地域づくり会議で検討している。</p>	

庄内町議会議長 殿





平成31年4月17日

庄内町議会「町民と語る会」実施要領の規定により提出します。

平成30年度 町民と語る会

第\_\_\_班 / 総務文教厚生・産業建設 常任委員会 / その他 (立川班)

班 長 小 野 一 晴

議長	副議長	事務局長	書記
	不在		 



「町民と語る会」報告書

開催日時	2018年11月28日	午後3時～午後4時45分
団体等名	庄内町商工会	
開催場所	庄内町商工ふれあい会館	
出席議員	吉宮 茂・石川 保・五十嵐 啓一・鎌田準一・小林清悟	
	上野幸美・國分浩美・阿部利勝	
参加人数	25人	
主な「質疑」「意見」「要望」「提言」など	(別紙記載可)	
	別紙による	

庄内町議会議長 様

平成30年12月14日

庄内町議会「町民と語る会」実施要領の規定により提出します。

平成30年度 町民と語る会  
産業建設 常任委員会

委員長 五十嵐 啓一



## 庄内町商工会役員と議会産業建設常任委員との意見交換会

期日 平成30年11月28日(水)午後3時~4時45分

場所 商工ふれあい会館

参加者

議会議長 吉宮 茂

産業建設常任委員 五十嵐 啓一 鎌田 準一 小林 清悟 石川 保

國分 浩実 上野 幸美 阿部 利勝

商工会役員21名出席 他に事務局4名

### 1 意見交換

庄内町商工業の振興策について

商工会としての要望書は事前に町に提出しており、回答をいただいている。

- ・平成31年度に向けての新規要望事項(12項目)
- ・継続要望事項(13項目)

上記の資料は事前に議員に配布されており、それを受けて質疑と各議員の商工振興に対する考えを述べて、その後意見交換を行った。

#### (1) 國分浩実議員

私自身も商工会の会員であり、たべぶら等の政策提案を行った経緯がある。生ごみ袋の件は決まり次第報告したい。今後とも、商工業の発展のため提案をしていく。

#### (2) 小林清悟議員

交流人口の拡大で町内にお金を落として頂く方法、また、庄内町として誇れる特産品等を共に提案したい。本町の財政をチェックしつつ、商工業発展、そして自立のための支援ができればと考えている。

#### (3) 鎌田準一議員

中心市街地の人口集積をどうするか、一緒になって考えていきたい。会員のみなさんがイノベーションの原動力となるように、同じ目線で課題を見つけていきたい。

#### (4) 五十嵐啓一議員

工事の発注方法については、地元業者が受注できるように提案している。大通り商店街のバイアフリー化や、アピア、空き家対策等具体的な例を挙げながら商店会の発展に寄与していきたい。また、中心商店街の電柱・街路灯などは景観に配慮し移転、駐車場の拡大など考えている。

(5) 石川保議員

議員 OB 会の際の視察で、グローバルマシンと大商金山牧場で工場内見学とお話を伺った。グローバルマシンには若い人達が多く、製造は工業系卒とかといった固定観念を持たず、社員第一で業績を上げている。大商金山牧場では 100 名を超える従業員を雇いつつ、「元氣のみなもと」である食を通して社会に貢献している。長く続く会社にはそれなりの理由がある。今後もいろんなところに足を運びいろんな考え方を学びたい。

(6) 上野幸美議員

クリスマス婚活や後継者育成支援、町ゼミなど優れた活動を会員のみなさんは行っていると思う。商店街振興に係わる地域おこし協力隊の任用についての要望については、他所から目線で三年間の可能性に賭け、商店街の活性化に寄与できればと考えている。

(7) 阿部利勝議員

子供のころ町のはずれに住んでいるせいか、商店街が輝いて眩しくみえた。今後とも輝く商店街であってほしい。少々個人的になるが、いままで地元偉人の周知の面も踏まえ、清河八郎関連の芝居を上演した経緯がある。来年は佐藤幸徳中将の芝居を上演する予定である。文化芸術関連でも町の PR になればと思う。

2 質問要望回答

質問 町の巡回バスの件だが、より良い利用方法はないか。

回答 買い物コース、医療コースなどの目的別などがあればと考えている。

質問 運転免許証返納者へのタクシー利用活用について問題はないか。

回答 平成 29 年度で運転免許返納者数 359 名に年間 2 万円分のタクシー券を支給している。今後費用の増大も懸念されるなか、より良い方向を模索、提案していく。

質問(要望) 働き方改革で、残業時間総量規制が罰則付きで来年 4 月に施行される(医師や建設、運輸は 5 年間、適用が猶予)。町の工事発注の標準化と工期の猶予をお願いできないか。

回答 国の予算の関係でどうしても下半期に集中しがちであるが、議会でも発注の標準化と適切な工期の設定を訴えていく。

質問 ハッピーシール部会だが、取扱店がここ 4 年の間で 100 店舗から 47 店舗と急減している。地域としてどう勝ち残っていくか課題である。新宿や早稲田商店会は QR コード決済などスマート商店街の実証実験を開始したが、まちづくりのなかで、行政と連携できるようなポイント化やキャッシュレス化をどう考えているか。

回答 町も対応するべきだと考えている。ポイントの受け皿をどこにするかの問題



はあるが、地域を通じてポイントを融通させて、例えば、税金をポイントで支払うことができるようにするとか、行政との連携を我々も学習していかなければならないと考えている。

回答 魅力のある商品があるから買い物をする、そしてポイントがたまる。また、買い物に来ていただくためにはどうあるべきか。駐車場の問題や空き店舗問題も含めて、総合的に考えていきたい。

回答 ポイント制のことは今後の課題だが、商品と共に人を売ることに努力している。ハッピーシールは、還元率も高く推移しているが、使えるところが少ない。

要望 旧47号のバリアフリー化、また、茶屋町の南側の歩道の段差等県への働きかけをお願いしたい。

回答 平成25年に提言させて頂き、今年2月に検証した。一部建造物が官地にはみ出しておりその問題をどうクリアするか。主体が県なので、要望のために期成同盟会的な組織が昨年できたそうなので、議会としても町に提案したい。また、県の方へ一緒に陳情に行くことも考えられる。

質問 茶屋町の一部で軽度の雨でも冠水する箇所があり、都市下水道は下水の利用より雨水が多いようでもあるので調査してすべきではないか。

回答 毒蛇と西野排水路の排水機場の改修工事が予定されている。また、ポンプ車の出動も含め、都市下水道の調査を提言したい。

質問 交通の便の悪いところには人は来ない、新幹線が必要と思われるが、要望はしているのか。

回答 フル規格新幹線「山形県庄内地区羽越新幹線整備実現同盟会」が発足しており、羽越本線の高速化（将来は新幹線に）は要望している。フル規格山形新幹線は、県の意向では新庄から秋田方面を計画している。

質問 高規格道路の状況はどうか。

回答 新潟、秋田の県境間の日沿道の早期完成に向けて、各地区の期成同盟会で国交省に陳情を行っている。また、高屋道路から廻館間のルートが決まってなく、こちらからのルート提案も検討している。

質問 要望書にあった地域おこし協力隊とイグゼあまるめとの連携は考えているか。

回答 イグゼあまるめで働いて頂き、その後定着して一緒にまちづくりをやれたらよいと思う。イグゼあまるめと地域おこし協力隊の連携を提案したい。

商工会事務局 町予算のなかで、農林予算は一般財源より、5.6億円。商工予算は1.7億と、約3.3倍の開きがある。職員はどちらも14名。従事者は農林993戸商工991戸。以上数値として報告したい。

# 「町民と語る会」報告書

開催日時	2018年12月5日	午後4時～午後5時45分
団体等名	庄内たがわ農協(管内出身役員)	
開催場所	庄内たがわ農協 新余目支所2階ホール	
出席議員	議長 吉宮 茂、副議長 石川 保、石川 武利、阿部 利勝、齋藤 秀紀、 加藤 将展、上野 幸美、五十嵐 啓一、小野 一晴 以上 9名	
参加人数	15人 (農協役員6名、職員9名)	
主な「質疑」「意見」「要望」「提言」など	<p>※平成31年度庄内町農林予算編成に対する要請事項について (質問：議員)</p> <p>Q1 水稲共済特例措置は現段階では対象になる人とそうでない人も含め、不確定な要素が多く、組合員への報告は慎重に扱うべきと思うがどうか。</p> <p>A 今後情報を精査して、伝えていく所存だ。</p> <p>Q2 特例をどうとらえるかの問題もあり、関係機関と情報を共有して、対処すべきでないか。</p> <p>関連で、ならし対策(米価が下落した際に収入を補てんする 保険的制度)のなかで、不作の場合理由書の提出が必要であるが、共済共々貰えないのではという不安の声もあるがどう考えているか。</p> <p>A 共済の補填が可能になるように、JAとしても要請、また努力していく。</p> <p>Q3 環境保全事業費は廃プラのみ計上されている。以前、総代会で廃農薬の処理についての発言があったがその後どうなったか。</p> <p>A 確認して、JAとして、どこまでできるか検討したい。</p> <p>※町の地域振興について、各項目ごとに次のとおり意見交換を行う。</p> <p>(1) 花卉振興策について</p> <p>JA トルコギキョウの連作障害対策として、VS菌を活用したもみ殻堆肥の効果が見込まれることから、庄内町の堆肥センターを活用したい。</p> <p>議員 堆肥センター廃止に伴い、所管が農林課から、管財係に移行し、利用料が年間100万円と聞いている。しかしながら、本町の花き振興の名目なら、農林課と連携し利用料の減免措置も提案したい。</p> <p>連作障害にかかった場合、再度生産販売に至るまでの期間と経費はどのくらいか。</p> <p style="text-align: right;">(2号様式に続く)</p>	

庄内町議会 議長 様

平成31年2月28日

庄内町議会「町民と語る会」実施要領の規定により提出します。

平成30年度 町民と語る会  
産業建設 常任委員会  
委員長 五十嵐 啓一

# 「町民と語る会」報告書（2号様式）

JA たい肥の効果だが、薬剤散布だけと比較して、100%とはいえないが、一年目から回復の兆しが見えている。経費としては、ほとんどがもみ殻だが、VS菌を使用し、80坪のハウスに、軽トラに枠を付けた7台分のもみ殻とVS34（菌）2.5袋と鶏糞3.5袋、カニガラ1袋、あと米ぬか10袋である。これを40日かけて切り返し、発酵させたものを施用する。栽培はストックとトルコギキョウとの体系でおこなう。

議員 水田の土づくりはどのように行っているか。

JA つや姫においては土壌調査を行って、栽培方法を県の指導と合わせて周知している。他の品種は、土壌改良剤に補助を行ったりして対応している。

議員 フザリウムにVS菌で対応できるのであれば、VS菌に補助を出すという方法も考えられないか。

JA VS菌にしろ、フザリウムにしろ、菌は単体ではなく、土壌中の他の微生物も含め複合的な要素が多いと認識している。堆肥の土づくり的な面も含め、VS菌単体のみの補助は考えていない。また、VS菌のみが絶対でなく、今後研究機関と連携をとり、さまざまな角度から、連作障害に対応したい。

## (2) ブランド産地強化策について

議員 新技術の項目だが、現在小型ヘリ防除が普及しているが、ドローンの活用は考えてないか。

JA 注目をあびているドローンだが、防除に関しては液剤の重量のこともあり、これからと考えられる。しかしながら、葉色診断による、施肥のコントロール等技術が進んできており、利用を検討していきたい。

現在、施設型農業の促進について調査中とのことだが、以前町長がいったハウス団地構想も踏まえてお話を伺いたい。

議員 先日、岩手県の農業研究センターと、秋田県3箇所を視察してきて、12月定例会に中間報告書を提出する。今後、県内の園芸施設を視察し、報告書を作成したい。秋田県では、水稻10haはすべて委託し、稲作依存から脱却している法人もあった。一団地で一億円規模のメガ団地の例では、圃場整備の際に土地を集約し、県・市・JAのトップが三位一体となり取り組んでおり、また、事業主体がJAとなることで、初期投資なしで法人（個人）が取り組めたようである。独自のJA経営といった「生き残るJA」の姿勢を感じた。町のハウス団地構想は現状停滞しており、今後の庄内たがわ農協の活躍を期待したい。

JA 12月の定例会の一般質問で、4名の方が米の不作について質問すると伺ったが、他の問題もあると思われるが調整はできないのか。議会広報を読んでも、ダブった質問に関しては、同じような回答である。

議員 事前通告ということで、制度上致し方ない面もあるが、同じような質問であっても、後半はベテラン議員が違った切り口から質問し、内容を深めている。映像配信もされているので参考にしていきたい。

輸出米において、日本の米は高品質高価格において取引されているようだが、安くて美味しいお米が圧倒的に市場で売れる。大きな市場で売れる米がブランド力でないか。

JA ブランド力について、国内においてはその通りだと思う。輸出米においては、市場の規模が違うが国内需給とのバランスを考慮したうえで、幅広く売れる米作りの環境を作っていきたい。

# 「町民と語る会」報告書

開催日時	2018年12月6日	午後1時30分～午後3時30分
団体等名	(株)イグゼあまるめ	
開催場所	庄内町商工ふれあい会館	
出席議員	議長 吉宮 茂、副議長 石川 保、石川 武利、工藤 範子、阿部 利勝、	
	長堀 幸朗、齋藤 秀紀、加藤 将展、上野 幸美、國分 浩実、小林 清悟、	
	澁谷 勇悦、鎌田 準一、五十嵐 啓一、小野 一晴、議会事務局長 以上16名	
参加人数	役員等 6人 (役員：佐藤社長ほか4人、職員：渡部統括部長)	
主な「質疑」「意見」「要望」「提言」など	※まちまか温泉「町湯」の運営についての意見交換は、以下のとおり。 (質問：議員)	
	Q1	この施設は、町が赤字を出さないと明言して建設した施設である。赤字を補てんするのであれば、現在経営するイグゼが経営改善し、赤字を圧縮する努力を示していただかないと町民に説明できない。根拠ある経営改善計画を示していただきたい。
	A	しっかりとした数字に基づいた経営改善計画を示したい。
Q2	年度別収支に平成26年度のみ営業外利益&費用8,326千円が計上されこの年度は黒字経営になっている。この収入が毎年あれば赤字にはならないのではないか。	
A	平成26年度に計上した8,326千円は、平成26年度企業支援型雇用創造事業「温泉施設プロジェクト推進事業」の単年度補助金である。	
Q3	源泉が低温なので光熱費が多いのは理解できるが、売り上げに対する人件費が多いことと、レストランの赤字についてどう経営分析なされているか。	
A	当初計画ではレストランはテナントにする予定であったが、応募者がなく直営経営となった。メニューも多くなり経費がかかり過ぎた。人件費に関しては、男湯には男性、女湯には女性の配置したこともあり、町が示した雇用人数より多くなった。	
	(2号様式に続く)	

庄内町議会議長 様

平成31年2月28日

庄内町議会「町民と語る会」実施要領の規定により提出します。

平成30年度 町民と語る会  
産業建設常任委員会  
委員長 五十嵐 啓一

## 「町民と語る会」報告書（2号様式）

Q4 シャれているギャラリー温泉町湯といった、他にないコンセプトであったが、地元高齢者の利用者が少ないなど、当初の計画と違った点はなにか。

A 設備に関しては、オープン早々からトラブルが発生した。温泉経営は初めてのこともあるが、町が行う補修は、システム上時間がかかり改善を要求している。また、当初計画の入場者350人に達せず、310人程度になっているためである。

Q5 管理委託料を必要としないのはなぜか。

A 町とイグゼの契約書に指定管理料は支払わないと明記している。町湯の赤字部分を他の部門でカバーしている。

Q6 施設・備品は多々改修したが、ほかの具体的な改善点はどうか。

A 高齢者がくつろげる空間と送迎バスの運行を考えている。若者対策としては、コメっちさんとかの運動施設に活用できないかPRしている。指定管理が今年度で切れるが、赤字改善のため皆さんの良い意見を聞いて前向きに対処したい。

Q7 赤字だから止めるというのは町益にならない。無報酬で役員をやっていることは驚くべきことだ。福祉事業として、管理委託料を町が支給し運営していくのも一つの方法だと思う。場所も狭いので食堂を廃止し、オニギリやカップヌードル、食事を取りたければ出前とかに変え、カーペットなど敷いて横になれる空間を増やすなど、街中の町湯にしてはどうか。

A よりよく続ける努力はしていく。食堂も新年度見直しをする。

Q8 温泉施設は町のものであり町の責任だから、継続して運営できるように議会も支援すべきと思う。町が責任を持って運営をサポートし、お互い歩み寄り運営していくべきでないか。

A イグゼは、お金をいただきたいからやっているわけではなく、まちづくりの一環として雇用している社員も守りたいし、町民に喜んでいただきたいと考えている。

Q9 第三セクターでも利益を上げてよい会社である。収益の見込まれる事業としてやれないか考えていただきたい。

A さまざまな事業を精査していく。

Q10 配当として入浴券を出資者に渡すのはどうか。厨房で賄いを出すなど、イグゼに入るお金を外に出さないようなアイデアはないか。

A 株主総会の際に共通株主優待券を配布しているが、今後もいろいろ検討してみたい。レストランでの賄いは、保健所の指導で現実的に難しい。

今日の語る会では、議員のほとんどが町湯を継続、必要としているとの意見だ。そのためにはどうあるべきか、お互いに知恵を出し合って、今後につなげていければと思う。

主な「質疑」  
「意見」「要望」  
「提言」など

# 「町民と語る会」報告書

開催日時	平成31年1月24日	午後1時30分～午後4時15分
団体等名	狩川地区自治会長会	
開催場所	狩川公民館	
出席議員	吉宮 茂（オブザーバー）、小野 一晴、齋藤秀紀、加藤将展、長堀幸朗	
参加人数	21名	
主な「質疑」 「意見」「要望」 「提言」など	※上記団体との町施策についての意見交換は、以下のとおり。 <span style="float: right;">（質問：団体参加者）</span>  (1)風力発電事業に係る風車建設について  Q1 地域貢献とは、町全体に対してなのか、風車が立っている地域だけなのか。 A まだ決定していないが、利益の一部を町に還元したいと考えているようだ。  Q2 秋田県の仁賀保市のように、遊園地などの総合的な開発はできないのか。風車の資材搬入のために、林道整備は必要ないのか。必要とすれば、町が整備することになるのか。 A 現在、総合的な開発の計画は無いようだ。林道整備が必要であれば、業者の責任で行うものとする。  Q3 町では、売電価格の今後の動向について、どのように考えているのか。負の遺産とならないようにする必要がある。 A 売電価格は年々下がっている。34年からはさらに大きく価格が下がると聞いている。収益で、町への貢献があることから、議会としても動向については注視していきたい。  <span style="float: right;">（2号様式に続く）</span>	

庄内町議会 議長 殿

平成31年4月17日

庄内町議会「町民と語る会」実施要領の規定により提出します。

平成30年度 町民と語る会

第\_\_\_班 / 総務文教厚生・産業建設 常任委員会 / その他（立川班）

班 長      小 野 一 晴

---

# 「町民と語る会」報告書（2号様式）

<p>主 な 「質疑」 「意見」 「要望」 「提言」 など</p>	<p>(2)立川庁舎の利活用について</p> <p>Q1 行政庁舎が無くなったところは、過疎化されている。1階に建設課を置くべきではないか。建設課を置けば、除雪や林道の管理に役立つ。</p> <p>A 今のところ、町では建設課や教育委員会を本庁舎に持って行き、立川支所には窓口相談業務として総合支庁長を置くことを予定している。</p> <p>Q2 周辺地域のテニスコートなどは、町外からも多数の利用者がいる。周辺地域の利活用については検討しているのか。町以外の人たちの利便性についても考えてほしい。</p> <p>A 今後、テニスコートや体育館などの周辺部分の利活用については、区長会でもまとめていただければありがたい。</p> <p>(3)災害時の避難場所の見直しについて</p> <p>Q1 8月の洪水時には、避難場所に避難する人が少なかった。その原因としては避難場所の利便性にあったのではないか。</p> <p>A 現在、防災係では、水害、土砂災害、地震それぞれに状況に合わせた避難所や一時避難所について、行政区長の皆さんの意見を聞いたうえで再検討しようとしている。</p> <p>Q2 行政では簡単に避難指示を出す傾向にある。現場の水位等の状況をしっかり把握したうえで避難指示等を出してほしい。</p> <p>A 確認したうえで早めに出している。勧告を早めに出すことは、人命を守るためためであり、ご理解いただきたい。</p> <p>Q3 防災無線は聞こえづらく、一人暮らしの世帯では電話にも出てこない人もいる。また、無線機材を更新した結果、一層聞こえなくなった地域もあるようだが、個別無線機などは使えないか。</p> <p>A 聞こえない地域などには、シグナル機能のある個別受信機の必要性を担当課に伝えてある。</p> <p>(4)その他</p> <p>Q1 防犯灯は、LED化が遅れているようだが推進しているのか。</p> <p>A 防犯灯については、壊れたものからLED化しており、計画的な更新はしていないようだ。</p>
---	---